

市長記者会見記録

日時：2026年5月25日（月）14時00分～14時35分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：【議題】令和8年第2回川崎市議会定例会議案等について 【総務企画局・財政局】

【話題提供】川崎市官民連携総合窓口「Kawasaki Future Co-Lab」の開設について 【総務企画局】

<内容>

【議題】

《令和8年第2回川崎市議会定例会議案等について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は、「令和8年第2回川崎市議会定例会議案等について」となっております。初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 よろしく申し上げます。令和8年第2回市議会定例会の準備が整い、6月1日月曜日招集ということで本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は、条例19件、事件7件、補正予算3件、報告12件でございます。

今議会の主な議案といたしまして、初めに、議案第90号「川崎市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について」でございます。等々力緑地に新設する新陸上競技場等について、有料で利用させる公園施設とし、利用料金制を導入するとともに、等々力緑地のテニスコート、サッカー場の利用料金の上限額を改定するため条例改正をするものでございます。

次に、議案第102号から第104号は補正予算でございます。このうち一般会計の補正予算の内容といたしましては、国の補正予算を活用して、訪問介護等サービスにおける提供体制の確保を支援するもの、介護老人保健施設の設置運営法人の決定の取消しに伴い補助金を減額するものなどございまして、補正予算は総額で6,000万円余を減額するものでございます。

また、自動車運送事業会計の補正予算の内容といたしましては、軽油等の高騰に対応するため、燃料費を計上している運転費を増額するものでございまして、補正額は5億円余を増額するものでございます。いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりでございます。議会の皆様と真摯に議論をさせていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと思っております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題終了後、改めてお受けいたします。

それでは、初めに幹事社様、よろしくお願いたします。t v kさん。

【t v k（幹事社）】 幹事社のテレビ神奈川です。すいません、後ろから。よろしくお願いたします。今御説明があった補正予算についてなんですが、燃料費の高騰について5億円余りを計上されていると思います。中東情勢の影響を受けてということなんですが、この額について市長の受け止めをお願いたします。

【市長】 次回の7月分からの入札というのは、もう1か月間に短期に絞ってという形の入札を行ったりしておりますけれども、とにかくこの間の燃料費の高騰が続いて、一旦はちょっと落ち着きを見せていますが、今後のことがまだ先行き不透明ということもありますので、これだけの額を補正して万全を期しているということでございます。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

【神奈川（幹事社）】 幹事社、神奈川新聞ですけれども、90号の都市公園条例に関してのお話なんですけれども、川崎市はこれまで等々力緑地再編整備については、スポーツの聖地ということも1つフレーズにしながら再編整備を進めてきた経緯があるんですけれども、今回の都市公園条例改正によって、サッカー場は約3.9倍、陸上競技場やテニス場はそれぞれ2倍近くの引上げが可能となります。今後、利用料の引上げは受益者負担の強化となって、市民利用の制約につながらないのかなという懸念があるんですけれども、市長は誰もが使える場と受益者負担の徹底、その辺のバランスはどういうふうに考えられていますか。

【市長】 利用額というのは、利用者にとって当然上がれば負担になってくるので、使いやすさという意味での一定の制約要因にはなると思いますが、ただ、これまで川崎市、他都市の類似施設と比べても、ある意味極端に安いぐらいの価格設定になっていたということはあると思います。上限設定をするということでございますので、その中で指定管理者とも協議の上決定していくという形になりますけれども、いわゆるバランスの問題だとは思っております。

【神奈川（幹事社）】 市の担当者に言わせれば、これまで格安過ぎて、値上げ分は人数で割ったりすれば、そこまで負担にならないんじゃないかというような説明も受けたんですけれども、とはいえ、昨今の経済状況とか踏まえると、いろんなものが高くなって、スポーツをやるところ、川崎市はこんな格安だからこそ、昨日なんかもグラ

ウンドに子供たちがいっぱいあふれて、子供を呼び込んで、スポーツの聖地として、やるスポーツとしては、公園としての機能をすごく果たしていたと思うんですけれども、その辺の市としての他都市に合わせるとか、これまで格安だったというのは分かるんですけれども、子供たちへの担保とか、その辺の施策みたいなのは何か今、考えているものがあれば教えてください。

【市長】 まず、公園の再編整備をしっかりとやっているというのは、先ほども触れていただきましたけれども、市民にとってスポーツの聖地という形での機能としてしっかりと果たせるような魅力のある公園にすることがまずとても大事なことだと思っています。料金だけをもって、魅力があるないということでは僕はないと思っていますし、まずはしっかりと魅力のある公園づくりというのをやって、その中で適切な料金設定をしていくことが本質の話だろうと思っています。

【神奈川（幹事社）】 多摩川河川敷の駐車場ですけれども、利用料が500円から1,000円に上がったとか、等々力緑地内の駐車場も1.2倍から1.5倍値上げしたりとか、やっぱり利用している市民にとっては負担感は大分増しているというのは現実的な問題としてあると思うんですけれども、その辺りは、値上げというか、利用料の上昇というのは、パブリックコメントを必要とされない案件と伺ったんですけれども、今後ハレーションがあるんじゃないかなと。今回報道することによって、いろんな団体等々からも要望等があると思うんですけれども、その辺、どうやって納得させていくかみたいな部分はどうお考えですか。

【市長】 利用料金って安いほうがいいに決まっているので、無料のほうがいいのかというのは当然あると思います。それはこれまでも、利用料金の在り方だとか、ちょっと案件は違いますが、使用料、手数料の話だとかって、誰がどのように負担すべきなのかということはこれまでもしっかり議論してきたと思っていますし、値段が上がっても、引き続き魅力のあるものに、市民にとって使える施設にしていくことは大事なことだと思っています。

ただ一定、施設整備をしたりとか、これだけ物価高騰しているところで、全て利用料金だとかに転嫁しないというのも、それまた違う議論だと思います。ですから、先ほど来申し上げているのは、やはりバランスの問題だと思っています。

【神奈川（幹事社）】 長くなっちゃってごめんなさいなんですけれども、結局そのバランスというのは誰がどう判断すると考えられていますか。

【市長】 基本的には最終的には市が決定することですので、広くいろんな方たちの意見も聞かなくちゃいけないと思いますが、しっかりと御理解をいただけるような説

明責任というのは、まさに市側にあると思っています。

【神奈川（幹事社）】 そういう説明会なんかも何度も何度もやって、納得、合意してもらおうよというか、理解してもらおうよな感じのイメージですか。

【市長】 正直、利用料金に当たって御納得いただけますか、いただけないなら取れませんという、そういう性質のものではないので、そこは御理解いただけるような合理的な説明をしっかりとっていくことに尽きるのではないかとと思っています。

【神奈川（幹事社）】 すいません、料金の話ばかりになって。改めてですけど、新陸上競技場が来年の5月にはもう開設されて、4月からはテニスコートなんかもどんどん、来年からいよいよ本格供用が始まりますけれども、等々力緑地、どうなってほしい、市長としてはこうなってほしい、そういうものを改めて。

【市長】 これまでも会見の席で言ってきましたけれども、等々力って川崎市民にとってとても大切な場所で、ハレの場所でもありますし、日常的にもっと使い勝手のいいものに、使い勝手というか、使われる魅力のあるところにしていかなくちゃいけないという意味では、ハレとケみたいところが常に動いている魅力的なところでなければならぬと思っています。その中で、施設整備だとかというのを様々やっていきます。その中で付随して、料金設定もどうしてもしていかなくちゃいけない、持続可能性のことを考えれば、ある意味当然のことだと思います。

まず、料金のところに今日は質問が集中しておりますけれども、いかに魅力的な公園をみんなで作っていくかということに対して、いろんな競技団体の皆さんともこれまで議論を積み重ねてきて、どういう施設整備をしていくのか、どういうものをつくるかということも議論してきました。今そういった段階に来ていると思いますので、料金も含めてですけども、魅力ある公園をつくっていきたいなと思っています。

【神奈川（幹事社）】 すいません、長くなっちゃいました。幹事社は以上です。

【市長】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、質問される場合には挙手をお願いいたします。

毎日新聞さん。

【毎日】 毎日です。燃料費の補正予算計上について。横浜市は今議会で、バス運賃値上げの条例改正案を提出しています。これだけ燃料費が高騰していますので、やっぱり料金に転嫁しなきゃいけないということをさっき市長もおっしゃっていましたが、今後川崎市で市営バスについて料金を値上げするということを考えていますでしょうか。

【市長】 今の段階で、料金の見直しについて明確にということは申し上げられませ

んが、経営環境は随分変わってきているということは、当然皆さん御承知のとおりだと思います。民間バスでもかなり料金が上がってきておりますし、市営バスとの料金の違いも大分出てきていることも事実です。ただ、前回の会見だったですかね、燃料費だけをもって値上げを判断するということではないので、ある意味、総合的な判断の中で検討していく内容だと思っています。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

東京新聞さん。

【東京】 東京新聞です。今の質問に関連して、今の段階での見直しは明確にはというお話がありましたけれども、これまで過去20年間で自動車運送事業会計で燃料費の高騰を理由とした補正の実績はないということ、また、補正の規模として、当初予算の倍以上のものを補正で組むことはすごく異例のものであるということも伺っておりますが、自動車運送事業会計ということでこれだけの補正を組むと、その分赤字幅が増えてしまうということだと思っておりますけれども、実際これが決算のときにどういう形になるかということだと思っておりますけれども、これだけの赤字というものをどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 それは燃料費という意味でですか。燃料費、この前の会見でも答えたと思いますが、1円違うと大体450万から500万ぐらいの収支に影響があるということなので、例えば5月の入札だと倍ぐらいの値段になってしまうと、その赤字幅は相当大きなものになると、すぐに計算できるという感じですが、前回入札の金額、あるいは今後どういうふうに移して行くかというのは中東情勢次第という部分もあるので、今の段階で決算がどのぐらいになってくるのかというのは非常に不確実なものですので、そういった意味では、今回の補正である程度このぐらい積んでおけば大丈夫だろうというところを積んでいるということですので、何とも厳しい状況であることは間違いありませんけれども、燃料費以外の節約できるところにも一生懸命取り組んでくれていますが、引き続き頑張っていきたいと思っています。

【東京】 川崎市、3月末にほかの5政令市と連名で国に対して緊急要請も行ったということですが、それに対して国のほうから、財政的支援も求めていたと思っておりますけれども、国からのアクションはどのようなものがありましたでしょうか。それか、ちょっと遅いなと思っているとか、どういう受け止めをされているか。

【市長】 国のほうとしても、今いろんな対策に急いでいるところだと思っていますし、日々、これだけ中東情勢が毎日のように、交渉がどうなるのかというのが日替わりメニューみたいになっているところでは、なかなか見通せない部分というのは、あ

る意味致し方なしと思っています。市内の交通事業だけに関わらず、もう全ての事業所に関係することですので、この辺りの情勢をしっかりと調査しながら、必要なことは国に情報提供していくということに心がけていきたいと思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ちょっとすいません、事務方から。

【交通局】 交通局でございます。先ほど市長の御発言の中で、燃料費の単価が倍以上になったというお話があったんですけれども、5月から倍とおっしゃっていたんですけど、正確には4月から倍です。訂正させていただきます。申し訳ございません。

【市長】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、引き続きまして市政一般のほうに入りたいと思いますが、本日は話題提供といたしまして、「川崎市官民連携総合窓口『Kawasaki Future Co-Lab』の開設について」となっております。モニターを準備いたしますので、少々お待ちください。

それでは、まず、福田市長から本話題提供について御説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

【話題提供】

《川崎市官民連携総合窓口「Kawasaki Future Co-Lab」の開設について》

【市長】 それでは、官民連携総合窓口の開設について御説明させていただきます。近年、社会経済環境は急速に変化しており、私たちが向き合う社会課題はますます複雑で多様なものとなっています。こうした中、民間企業や団体の皆様と力を合わせて、社会課題の解決と新しい価値の創出に挑み、変革を生み出す取組を一層加速させるため、本日、官民連携の総合窓口「Kawasaki Future Co-Lab」を開設いたしました。併せて、14時から専用ウェブサイトも公開しております。

総合窓口の名称は「Kawasaki Future Co-Lab」です。このCo-Labは、Co-CreationとLaboratoryを組み合わせた言葉であり、「川崎の未来を、立場や分野を超えて、ともに創り上げていく共創の場にしたい」という思いを表現しております。また、タグラインは、「この挑戦が、次の挑戦を生む」としております。川崎で生まれた挑戦を事業や仕組みとして社会に実装することで、その成果をまた次の挑戦へとつなげていきたいという決意を表しています。

こうした思いを踏まえて、共創への思いを皆様と共有していくため、目指す姿であるビジョンと大切にしている価値、バリューを掲げました。目指す姿は、社会課題の解決

と新たな価値の創出に挑み、社会を前に進める変革を生み出し、川崎から世界へ広がっていくようなモデルを確立することです。熱意ある挑戦者が川崎に集まり、皆様の挑戦を確かな社会実装へとつなげ、次の挑戦者を呼び込む好循環をつくり出してまいります。

こうした思いを実現していくものが、本日開設した官民連携総合窓口です。各部署が抱える課題を発信するとともに、民間企業や団体の皆様からの相談や提案を一元的に受け付け、事業創出から社会実装までを一体的に支援していくものです。

特徴の1つが重点共創フィールドです。川崎市が重点的に取り組む領域を、重点共創フィールドとして明確に発信してまいります。その1つの特徴が、「Colors, Future! Actions推進部会」です。民間事業者と川崎市による官民連携推進組織により、民間企業の視点も取り入れながら取組を加速させてまいります。

重点共創フィールドは、画面にございます4つの領域です。いずれも川崎市がまさに直面している重要な社会課題です。検討の段階から民間企業等の参画を促し、様々な提案等を取り込みながら、事業の創出とその先の社会実装をともに推進してまいります。

最後になりますが、「Kawasaki Future Co-Lab」は、単なる相談窓口ではございません。皆様のアイデアや技術、ビジネスの力を川崎のフィールドと掛け合わせ、社会実装へと導く共創の起点です。我こそはと熱い思いを持ったチャレンジャーの皆様、ぜひ川崎というフィールドで挑戦していただきたいと思います。私たち川崎市も、皆様と同じチャレンジャーとしてともに挑み続けてまいります。また、川崎から生まれる挑戦を必ず社会実装へとつなげ、その成果がまた次の挑戦を生む、そんな好循環をここから生み出していきたいと考えております。

私から以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明した件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。

それでは初めに、幹事社様、よろしく願いいたします。

【市政一般】

《磐越自動車道における男子高校生の死亡事故について》

【t v k（幹事社）】 幹事社のテレビ神奈川です。改めてよろしく申し上げます。今月起きた福島県でのバス事故を受けて市教委の動きを確認したいんですが、部活動などの移動の実態調査などを行っていただければ教えてください。

【市長】 現在、教育委員会におきまして、私立中学校、私立高等学校を対象に、各

学校における部活動の遠征時の交通手段について調査を行っているとお聞きしております。この調査結果を踏まえて、改めて安全確保に万全を期していきたいと思っています。

【t v k (幹事社)】 調査方法はこういった方法で行っているのかと、対象校数が分かれば教えてください。

【市長】 事務方からでもよろしいでしょうか。

【t v k (幹事社)】 大丈夫です。

【教育委員会】 教育委員会でございます。よろしくお願ひいたします。調査につきましては、L o G o フォームというもので回答をお願いしているところでございます。以上でございます。

【t v k (幹事社)】 学校数は分かりますか。

【教育委員会】 失礼いたしました。対象校は、中学校52校と高等学校、定時制も含めて5校調査をしております。

以上でございます。

【t v k (幹事社)】 ありがとうございます。

以上です。

【話題提供】

《川崎市官民連携総合窓口「Kawasaki Future Co-Lab」の開設について》

【神奈川 (幹事社)】 幹事社、神奈川新聞ですけれども、改めてこちらの「Kawasaki Future Co-Lab」ですけれども、市長は、どこまで行ったら、成功って言ったら言い方は変ですけれども、何をもって、この挑戦は市にとっては成功かなとお考えですか。

【市長】 ある意味、先ほど申し上げたような社会課題を解決するソリューションと一緒に考えてプロジェクトを立てて、社会実装までやるということが次々と生まれてくる状態が成功なのではないかと思えます。これまでもいろんな実証実験だとか企業様との連携をやってきましたけれども、結構課題みたいのがあって、いろんな部局をまたぐことって結構多いんですよね。これってどこに相談していいですかというのはなかなか難しく、それに一体的に取り組むことがなかなか難しい課題があって、そういったところを今回解消して、スムーズに回るような仕組みができればいいなと思っています。

【市政一般】

《名護市辺野古沖で起きた重大事故について》

【神奈川 (幹事社)】 また話が変わるんですけど、名護市辺野古沖で船が転覆し、女子生徒ら2人が死亡した事故をめぐって、国が政治的中立性を定めた教育基本法に

反するとの考えを示されました。川崎市でも平和館を中心に、平和教育はすごく大切にやっているといると思うんですけども、なかなか一概にこうだ、駄目だとか言いづらいたは思うんですけども、市長は今回の判断についてはどういうふうに受け止めたり、今後こうするみたいなお考えは何かありますか。

【市長】 今回のことを受けて、何か私たちが変更するだとかということはないと思います。

【神奈川（幹事社）】 今回の判断というのは……。

【市長】 判断というのは……。

【神奈川（幹事社）】 国が教育基本法に違反すると考えを示したことについては、何か思うところはあったりしますか。

【市長】 僕、それほどしっかりとフォローしているわけではないので、あまり軽々なことを言うべきじゃないかなと思っています。

【神奈川（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

幹事社、以上です。

【司会】 それでは、御質問ある方は挙手をお願いいたします。

時事通信さん。

《特別市について》

【時事】 時事通信社と申します。また、特別市の話なんですけれども、いろんなところで賛否両論というか、出てきていますけれども、まず県内の動きとして、賛成の市長以外は反対するというか、県とのお話とか、今後やっていこうとか、そういった考えはあられますでしょうか。

【市長】 まず、県の主張に対するコメントという形で、3政令市の市長名で緊急声明みたいなコメントを出させていただきましたので、そのとおりで、既存の枠組みだけに基づいて、壊滅的な危機になるみたいな、そういうようなことを言われているのは極めてミスリードだなと思っておりまして、先日、報道でも出ておりましたけれども、横浜市長が4首長懇をとという話も言われておりましたが、この前3人で会ったときに、しっかりと冷静に議論していこうじゃないかということで、4首長懇が望ましいのではないかなということで一致しまして、今年、横浜市さんが当番市ということでありますので、横浜市さんから呼びかけていただくということになりましたし、幸いなことに、地方制度調査会でしっかりと特別市というのは審議テーマとなって、今、走り始めましたので、その中でもしっかりと詳細について議論していくことになると思いますので、そこでしっかりと私たちの考え方を伝えていければいいなと思っ

ています。

【時事】 分かりました。今のところ、地方制度調査会の専門小委員会とか、具体的な議論が始まると思うんですが、指定都市市長会とか市長とかにヒアリングとか、知事会とか言われているとか、そんなまだ……。

【市長】 第1回は既に神戸市長が呼ばれているというのがありますけれども、今後そういう機会があれば、ぜひ私たちの考え方を伝えていきたいと思います。今、日にちが決まっているものはございません。

【時事】 分かりました。じゃ、今のところは、県内の中でも4首長、その会議を横浜市さんをお願いするというか、市長のほうも開催してもらいたい……。

【市長】 議論逃げてないという、オープンな形でおっしゃっているの、ぜひオープンな形で御説明させていただきたいなど、誤解についてもしっかりと解いていきたいなと思っています。

【時事】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

東京新聞さん。

【東京】 東京新聞です。関連で、先日、3市で出された緊急声明の中で、今後も制度の意義や考え方について丁寧な説明を積み重ね、関係者の理解が深まるよう努めるということも書かれていて、丁寧な説明を尽くすということをいろんな場面でおっしゃっているのかなとも思うんですけれども、素人考えであれなんですが、一方で、今月上旬にあった市長会議に御出席をされなかったということについて、どういう御意図があって出席をされなかったのかを教えてくださいませんか。

【市長】 あまり詳細に明かすと困る人たちがたくさん出てくるというのはありますので、あまり具体的なことは申し上げたくありませんが、極めてフェアではない運営がなされるということが明白でありましたので、3市長と、私を含めた政令市の市長と相談して、ここは出席は取りやめようと、ちゃんとフェアな形での議論がなされる場で御説明させていただくほうがいいねという話になりました。以降の一連のストーリーを見ると、どういうことかというのは皆さん、お分かりになると思います。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

読売新聞さん。

【話題提供】

《川崎市官民連携総合窓口「Kawasaki Future Co-Lab」の開設について》

【読売】 読売新聞です。官民総合窓口に戻りますが、今までも民間提案制度はあったということなんですけれども、今回の体制でどこが変わるのかというところをもう一度改めて説明していただけますか。

【市長】 改めて、先ほど申し上げたように、窓口を全部一元化するというのと、それから同時に、私たちの職員のマインドというのもこの機会に変えていかなければならないと思っています。お互い、官民併せて民間提案を受け付けますという非常に受け身な姿勢から、お互いが社会解決に対等な立場で一緒に解決していこうという主体性を持ったものになっていくと考えておりますし、私、大事だと思っておりますのは、実証は山ほどあるんですよ、世の中。実証は山ほどあって、実装に至るところというのが、もうみんな実証疲れしている部分はあると思います。ちゃんと出口を見据えて、お互いに取り組んでいくという、社会実装まで持っていこうという覚悟を持って、今回の組織をつくったということでございます。

【読売】 社会実装という具体的な形にまで持っていくところが大きなところと考えてよろしいですか。

【市長】 そうですね。はっきり言って、企業の皆様も、実装させて、それが川崎だけではない、ほかの都市あるいは世界の都市課題に取り組めるというものがなければ、お互いメリットが出ないと思っていますので、そういったところの出口をしっかりと見据えることが大切だと思っております、そこのところは私たちも覚悟を持ってやりたいと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

神奈川新聞さん。

【市政一般】

《栃木県における強盗殺人事件を受けた対応等について》

【神奈川（幹事社）】 神奈川新聞です。栃木県で起きた強盗殺人事件についてなんですが、容疑者の1人の少年が川崎市の出身というか、川崎市に住んでいる少年だと思わんですけど、そのことについて、お子さんをお持ちの市長としてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 川崎在住の生徒であったことは非常に残念ですけれども、正直、情報提供が特に警察からあるわけでもないの、私たち情報を持っていないというのが正直なところで、今後捜査される中でいろんなものが明らかになってくるんだろうとは思っていますが、現時点では分かってない部分が多過ぎて、コメントしづらいところです。

【神奈川（幹事社）】 例えば今回の場合は、指示役が少年に友達を集めさせて犯行に及ぶようにしたとニュースとかで報道されていると思うんですけど、例えば友人関係に悩んでいる高校生とか、下手したら中学生とか、そういった子たちの相談体制ということに関して、川崎市ではどのようにお考えでしょうか。

【市長】 相談体制というよりか、今そういう犯罪に巻き込まれないようにしましよとかって、あるいはその呼びかけだとかネットのリテラシーの部分というのは、市内の学校でも私立学校でもかなりやっている部分があります。犯罪ですから、そういうことにどうしてもだまされてしまうことってあるんでしょうけれども、それができないような環境に持っていくことが大事かなと思っています。あれはもう発表したのかな。県警と、県も一緒にやっている話でありますけれども、大学生と一緒にあって、詐欺みたいなものに遭わないようにとかという訓練を繰り返して、やってみたら、やっぱりそこはだまされちゃうみたいな話が出てきて、そういうふうにだまされるとか犯罪に巻き込まれる危険性をしっかり、相談よりも、まずみんなに伝えていくことが大事かなと思っていますので、それは教育委員会とも連携して、しっかりやっていきたいと思っています。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当